



若年介護を考える シンポジウム

若年介護者(10代・20代で介護を担いはじめた人、その経験が今も続いている人、その経験のある人)は、介護の責任を負うことによって、進学や就職、友人関係や恋愛、キャリア形成にしばしば大きな影響を受けます。「介護・生活・仕事」のバランスを保ち、夢や希望をもって生きるためには、どのような支えが必要なのかを一緒に語りあいましょう。

日時 2015年**11月28日(土)**13:00～16:00(12:30受付開始)

場所 京都市男女共同参画センター(ウィングス京都)2F会議室1・2
(〒604-8147 京都市中京区東洞院道六角下角御射山262)

定員 30名(先着順:定員になり次第締め切らせて頂きます)

参加費 無料(対象者:若年者の介護・家族介護等に興味・関心のある方、介護・社会福祉等を学ぶ学生)

プログラム

●基調講演

松崎実穂さん(国際基督教大学ジェンダー研究センター)

「家族をケアする若者・子どもについて考えよう」

プロフィール:1974年東京生まれ。学生であった19歳から25歳の間、認知症の祖父の介護を体験。その後、30代前半で、祖母の入院・手術・在宅での見守りを体験。学生の頃、祖父の介護をきっかけに高齢者介護を研究テーマに選んだものの挫折。その後、数年を経て、再び、自らの経験をいかに、若者・子どもと介護に関する研究に取り組んでいる。



●シンポジウム

「体験者が語る介護のリアルから『支える』を考える」

＜コーディネーター＞

松崎実穂さん(国際基督教大学ジェンダー研究センター)

＜シンポジスト＞

朝田健太さん(男性介護者を支援する会「TOMO」:孫介護体験者)

22歳から7年間認知症の祖父の介護に携わる。26歳の時から男性介護者を支援するTOMOの会員として活動。

有澤真悠子さん(エキサイト株式会社:孫介護体験者)

28歳から5年間認知症の祖母の介護に携わる。介護経験はいかし、インターネットにて介護家族支援サービスを立ち上げる。

武藤倫行さん(まごころデイスーパーサービス管理者:若年介護体験者)

父親の病気をきっかけに25歳で介護の世界に飛び込む。現在はデイスーパーの管理者として勤めている。

アクセス



- 地下鉄烏丸御池駅(5番出口)または地下鉄四条駅・阪急烏丸駅(20番出口)下車徒歩約5分
- 一般来館用の駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

[主催]一般社団法人いばしょ [共催]公益財団法人京都市男女共同参画推進協会

◆参加申し込みは、事前に下記の電話、FAX、E-mailのいずれかをお願い致します。

お名前	住所			〒
E-mail アドレス	電話		()	
ご職業 ご所属				

※E-mailでお申し込みの場合は、お名前、住所、E-mailアドレス、電話、ご職業・ご所属をご記入ください。

※FAXでお申し込みの場合は、このチラシにお名前、住所、E-mailアドレス、電話、ご職業・ご所属をご記入して送信ください。

※お申し込み後のご連絡は致しません。当日直接会場にお越しください。定員となり、やむを得ずお断りする場合のみご連絡致します。

※提出頂きました個人情報(連絡、名簿作成等)以外には使用しません。

お申込み先:一般社団法人いばしょ 〒615-0061 京都市右京区西院乾町48番地6

☎:090-3613-3518 FAX:075-874-5263 E-mail:info@ibasyo.biz(担当:武田)

※お申し込みは、なるべくE-mailをお願い致します。